はじめに

気温の上昇だけでなく、金剛堂山の山開き、雑草の背丈の高さ、あちこちから聞こえてくる草刈り機の音、利賀川の水位の低下、さまざまなことから一気に夏の到来を感じる今日この頃。最近の留学生たちは「そろそろ川遊びしたいな」「暑いから川入りたい」と川に入れる日を待ちわびているようです。

今回のセンター期間から留学生が待ちに待っていた演目（太鼓や笛、民舞）の練習が始まりました。各地方に根付く伝統芸能を体験する、演目を通して自己を表現する、ということから演目の活動を行います。空き時間を見つけては「太鼓叩くぞー」「どうやって叩くの？教えて」と留学生同士で声を掛け合って練習に取り組んでいます。2 期生 13 人がどのように演目と向き合い、どのような 2 期生ならではの雰囲気を作っていくのか今後が楽しみなところです。

しかし、自分たちのやりたいことができるようになった一方、やるべきことをおろそかにしてはならず、自分たちの生活習慣の課題により目を向けていかなければなりません。入園から約 3 か月が経ち、生活や活動にも慣れてきて、徐々に自分たちで生活を営み、生活を改善していこうとしていますが、洗濯物を忘れず干す、時間を守る、活動で使った道具を片付ける、など基本的なことがもう一歩、というのが現状です。1 学期も残すところ早 1 ヶ月。今一度、留学生も指導員も自分たちの行動を見直し、演目だけにとどまらず、1 学期を良い形で締めくくれるようにしていきたいと思います。

山本　将寛

【 活動カレンダー 】

5月

- ２７日　センター入り
- ２８日　個人体験活動日、畑作業
- ２９日　代かき

6月

- ４日　畑作業、ゆめ基金週末活動（～５日）
- ５日　田植え
- １１日　味噌仕込み
- １２日　金剛堂山登山
- １４日　ホームステイ入り
- ２３日　センター入り

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

５／２９　代かき

　時期としてはだいぶ遅くなってしまいましたが、田植えの準備でもある代かきの活動を行いました。今回は、利賀の小中学生も６名参加し、総勢 19 名での作業となりました。

　班ごとに手を繋いで並び、ゆっくりと足踏みをしながら進んでいき、土を細かくしながら水と混ぜ合わせていきます。子どもたちからは「生ぬるい！」「なんか変な感じ。」「でも気持ちいいかも。」と色々な声が聞こえてきました。

去年は、泥で汚れるのが嫌だったけど、1年間でそういったことにも慣れました。今年は覚悟を決めてきているので、遊ぶ時は先頭切って遊ぼうと思っていました。みんなで遊べて、楽しかったです。**（遥也）**

石が足にささって「痛い」と叫びながら、みんなと歩いたのが楽しかったです。遊ぶときには、昨年よりも人が多くなり、人の倒しがいあってすごく楽しかったです。リレーで在音に転ばされたのが悔しかったですが、自由時間に倒し返せたので満足しました。**（芽生）**

６／１１　味噌仕込み

　センター活動で食べるための味噌を、今年は大豆 15kg 分仕込みました。地域の方に昔ながらのやり方を教わりながら、煮た大豆を味噌すり機ですり潰し、塩や煮汁と混ぜて樽に入れました。「モンブランみたい」「はい、交代しよう！」と賑やかに手際よく作業していました。最後に麹を合わせて混ぜる作業では、「けっこう重いね…」と驚きながらも、「おいしくなあれ！」と声をかけたり、みんなで歌いながら混ぜたりと、最後まで楽しそうに作業していました。今年も冬頃に食べ始められる予定です。

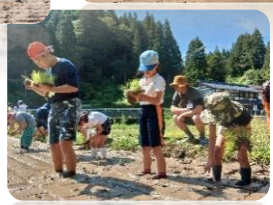
６／１２　金剛堂山登山

　約 10.5km の道のりを 6 時間 30 分ほどかけて歩き、標高 1650m の金剛堂山を登りました。雨空なうえに連日の雨で滑りやすい足場でしたが、疲れないように、転ばないようにゆっくり進み、無事にみんなで帰ってくることができました。「これは僕の杖だ」と言って、木を突きながら歩いていたり、藪が無くなったところで「やっほー！」と叫んでいたり、「おいしそうなすす竹だな」と採らずとも見つけていたり、留学生一人ひとりの楽しみ方で歩いていました。

金剛堂山は、最初はすごく登り坂があり、とてもきつかったです。その後は、最初よりも坂がきつくなかったので、楽に登れ、高峰山よりもつらくなかったです。来年も利賀にいたら、また登りたいです。　（智康）

６／４・５　ゆめ基金週末活動

南砺市を中心に 24 名の親子が参加し、１泊２日の体験活動を行いました。１日目は山菜取りへ。その山菜は子どもたち自身で天ぷらや和え物にして、夕食にいただきました。たくさんあったお代わりの山菜の天ぷらもきれいになくなりました。２日目は田植えを行い、昼食は留学生を中心においしいカレーとご飯が炊きあがりました。班ごとに作ったカレーは、それぞれの味にも違いがあり、食べ比べながらおいしくいただきました。午後は川で遊ぶ人、利賀を歩いて散策する人など自然に触れあって過ごしました。参加者から「ここにずっといたいな・・・」という声も聞かれ、充実した２日間を過ごせたようです。



６／５　田植え

代かきから１週間後、田植え作業を行いました。作業は、子どもゆめ基金の週末活動の参加者と一緒に行いました。田んぼの畦に１列に並んで一斉に植え始め、田植えが始まると、あちこちから「こっちに苗なげてー！」「こっちもお願い！」と声が上がっていました。大人数での作業だったので、１時間ほどで植え終わりました。センターで育てた苗がしっかり育っていくか、これからが楽しみです。

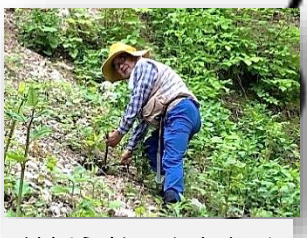
～ 雑草のようにたくましく ～

5/２９　草取り・間引き・種まき　　6/4　定植・支柱・ネット張り

畑の作業は週末の活動や日々の水やりなど着々と進めています。「じゃが芋ちゃんと出てきたね」「カボチャでかい！」と成長にも目を向けられている様子。ラディッシュや小松菜は収穫が始まり、当番の人が採ってきたものを食卓に出してもらっています。「やっと食べられる！」「ちょっとからいかも…」と自分たちが作った野菜に興味を持って食べています。

くま爺のつぶやき・・・

週末等を活用した自然と暮らし活動が始まった。今年度は国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金の助成により五回を予定している。一回目は６月４日と５日。「春の里山山菜採りと春の味覚自炊キャンプ」。この取り組みは自然と人の繋がりについて食を通して学ぶことをねらいとしており、子どもたちには食事やおやつづくりに深くかかわってもらおうと考えている。初日の夕食は里山で採ってきた山菜をメインとした献立。「薪で炊く山菜混ぜご飯」、「山菜の天ぷら」、「新じゃがを使ったポテトサラダ」、「山菜スープ」、「デザートのクレープ」を大人たちに助けてもらいながらみんなで作りいただいた。二日目は田植えをしたあと、３つのグループに分かれて、それぞれが薪でご飯を炊き、カレーを作りできた順にいただいた。解散前の「子ども手づくりおやつ」は、農繁期に栄養があって手軽で田んぼ作業の合間に食べた「きな粉おにぎり」を葉っぱで包んだものをいただいた。おかわりがあっという間になくなった。次回は６月下旬、さて、子どもたちに何を作ってもらおうかな。



統括主幹　山本光則

保護者だより

山村留学中の我が子に私ができる唯一のこと。それははがきを書くことです。1 年目は 2、3日に 1 枚は書いていました。内容はたわいもないこと。センター・学校・利賀村の方の発信してくださるブログを確認して、子供とはがきを通じて対話している感覚で書いています。書くことがそれほど得意でない私でも継続できているのは、こんなはがきでも待っている我が子がいること。センターの方が「いつもはがきが来てないか聞きにくるんですよ。」と教えてくださったとき、とてもうれしく思いました。子供からのはがきは、月に1, 2枚程度です。それでも届くと家族みんなで喜んで読んで、次の日にはすぐに返信です。子供のはがきには学校でのこと、センター活動のこと、受け入れ家庭さんでの日常生活などが書かれています。

「ひさしぶりにひなたぼっこをしたよ。」

「獅子舞では、たいこ・かね・はたもちができた。楽しかった。」

「畑でとうもろこしとバジルをまきました。ちゃんと育ってくれたらうれしい。」

「ホームステイではいろいろと手伝わせてもらっています。
ものすごく楽しいです。」 【はがきより抜粋】

改めて、山村留学で親元から離れていても我が子を想う気持ちは変わらないし、それ以上に利賀村のみなさんやセンターのスタッフの方が山村留学生を家族のように大切にしてくださるから安心して我が子を預けられるのだと思います。

今年もはがきを通じて我が子の成長を見守りたいと思います。

まだ雪が多く残る 4 月。6 年生になる娘を送り出してしばらく経ちました。

これまでの生活とは全く違う利賀での留学生活。自然豊かな環境でどれもこれも初めての事ばかり。自然は好きですが、虫は嫌いで大袈裟なほど飛び上がって逃げていた娘が、素手でミミズを触っていると聞いた時には小さな衝撃でした。

5 月には坂上の伝統ある春祭りに参加した際のテレビ放送の動画を見ました。笛や太鼓の祭囃子には地元出身者でなくとも聞くだけで不思議に気持ちが盛り上がるものですが、練習や準備から仲間に入れていただき、より一層子どもたちが感じた喜びは大きかったのではないかと思います。

これから本格的な夏を迎え、秋・冬と続く利賀での生活の中で、娘はどんな経験ができるだろうと羨ましいと思うと同時に楽しみに感じています。

そしてこのような多様な経験が得られるには家族のような友達、頼もしいスタッフの方々、ホームステイを受け入れてくださるお父様お母さま、そして、地域の多くの方々のお支え無くして成り立つことはありません。心から感謝をお伝えしたいと思います。

また、なかなか直接お目にかかれませんが留学生の保護者の皆様方には何か遠方からでもお役に立てそうなことがあればお声掛けいただければ嬉しく思います。

どうぞ一年間よろしくお願いします。